

## 34 代表的な数種建染染料の染色性について

千葉大学 松本 芳枝

木綿の堅ろう染色用として注目されている建染染料は染色に還元、酸化等の過程を含むので、染色特性の研究には非常な困難を伴うが、今回はヒドロサルファイトによって建浴する常法を用いて代表的な7種の建染染料につき、染色温度及時間、アルカリ、ヒドロサルファイト、食塩の添加量の影響を検討した。

即ち Threne Blue RS, Threne Yellow G, Threne Gold Orange G, Threne Gold Yellow GK, Threne Dark Blue BO, Threne Violet B 及 Threne Red GG 等の染料を用い、温度  $30\sim 60^{\circ}\text{C}$ 、時間 15分 $\sim$ 2時間、NaOH 0.2 $\sim$ 1.1%、 $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_4$  0.2 $\sim$ 1.0%、NaCl 0.1 $\sim$ 0.4% (何れも浴濃度) で染色を行い、之を1ℓに1N NaOH 180cc、 $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_4$  10g、エチルセロソルブ 300cc を含む脱着液で、 $70\sim 75^{\circ}\text{C}$ 、浴比 1 : 5 で1回 30分、5 $\sim$ 6回繰返して完全脱着を行い、脱着液中の染料リウコ体の濃度を分光光度計により定量し、染着率を算出した。

その結果建染染料の還元性、建浴安定性、溶解性等の性能が個々の染料の染色性に異った割合で寄与するので、直接染料の染色に於ける如き一般的な通則は認められなかった。例えば時間の経過と共に染着率は増大するが、必ずしも高温の場合ほど染着率が大になるとは限らず、又 NaOH、 $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_4$ 、NaCl の添加量の影響も染料によって著しく異った傾向を示す。しかし概して指定染色法の範囲内に最適染色条件が見出されたので、これらの詳細を報告する。